

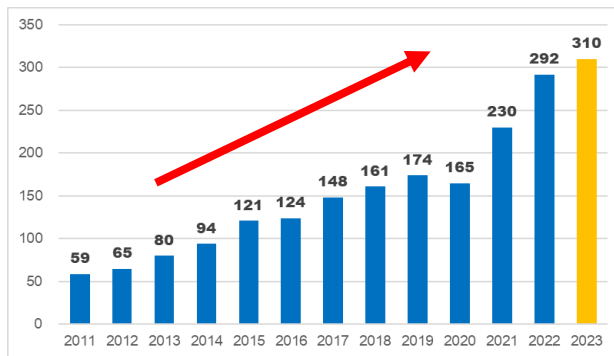
## オーストラリアへの食品輸出の動向について

一般財団法人自治体国際化協会シドニー事務所 研修生 國崎 麗子

### 1. オーストラリアへの食品輸出の状況

日本からオーストラリアへの農林水産物・食品の輸出<sup>1</sup>は、着実に増加している。2023年の輸出額は、円安も追い風となり、過去最高の310億円（前年比6.2%増）であった。輸出相手国としては、世界第9位で、日本の農林水産物・食品の輸出額全体（1兆4,547億円）の2.3%にあたる。

独自の生態系を持つオーストラリアは、国際的にも検疫制度が厳しい国であり、日本からの輸出の中心は加工食品である。



【表1】2011年～2023年の輸出額推移（単位：億円）

順位	品目	2022年 輸出額 (A)	2021年 輸出額 (B)	対前年比 (A) / (B)
1	アルコール飲料	56億円	42億円	133%
2	清涼飲料水	45億円	43億円	105%
3	ソース混合調味料	26億円	20億円	130%
4	ホタテ貝	21億円	10億円	210%
5	牛肉	8億円	5億円	160%
6	醤油	7億円	7億円	100%
7	スープ プロス	7億円	5億円	140%
8	インスタントコーヒー	6億円	3億円	200%
9	キャビア及びその代替品	5億円	—	—
10	即席麺	4億円	3億円	133%

【表2】2022年の輸出品目別内訳

【出典】農林水産省「2022年農林水産物・食品の輸出実績（国・地域別）」（2023年6月発表）、「2023年の農林水産物・食品の輸出実績」（2024年1月発表）を基に筆者作成

### 2. 日本産アルコール飲料の流通状況について

輸出額が最も大きい品目はアルコール飲料である。オーストラリアへの食品の輸出総額の約2割を占めており、近年、日本産のアルコール飲料の人気が高まっている。

2023年9月30日、10月1日にシドニーで開催された「酒フェスティバル」<sup>2</sup>は、約3,500名／日の来場者が訪れ、大盛況であった。



【写真1】酒フェスティバル会場の様子

<sup>1</sup> 日本とオーストラリアの間では、2015年に発効された日豪経済連携協定（JAEPA）に基づき、ごく一部の商品を除き、輸入関税は撤廃されている

<sup>2</sup> JAMS.TV主催、酒蔵や日本食販売事業者、日本の自治体など約60団体がブースを出展。200種類以上の日本酒、果実酒、焼酎、泡盛、ウイスキーなどを試飲・購入することができた。入場のための前売り券は大人69豪ドル（約6,700円）。10月2日には、飲食店や卸売業者、小売業者向けの商談会、日本酒セミナーが開催された。2024年も開催予定。

日本からの食品輸出に携わる関係者の話では、日本酒は、日本食レストランなどを中心に、オーストラリア市場全体で既に約 300 種類が流通しており、認知度も高くなっているという。シドニー中心部のリカーショップ(酒屋)には、必ずといってよいほど、日本の大手メーカーのビールが並んでいる。また、ジャパニーズウイスキーはオーストラリアでも人気が高く、レジカウンターの後ろの棚や鍵のかかったケースに陳列されていることが多い。酒屋の店員によると、最近では、日本の缶チューハイや缶カクテル<sup>3</sup>も人気があるとの話であった。

### 3. 福岡県に関連する食品の販売状況

オーストラリアの日系小売店やアジア系小売店では、アルコール飲料のみならず、調味料や菓子、麺類など、日本からの輸入食品の品揃えが充実している。

シドニー中心部のアジア系小売店では、本県にゆかりのある食品も販売されている。



【写真2】シドニーの居酒屋で提供されていた福岡県産酒



【写真3】「Recommend (おすすめ)」という表示がついた缶チューハイ (340 ml 缶、6.50 豪ドル/約 630 円)

商品	ラーメン	調味料	茶	菓子	
写真					
説明	ラーメン (5 食入) 福岡県内の企業が製造	即席棒状麺 (2 人前) 福岡県内の企業が製造	辛味調味料 (75 g) 福岡県内の企業が製造	八女茶 (80 g) 県外の企業が製造	あまおう・八女茶を使用した和生菓子 (235 g) 福岡県内の工場が製造
価格	46.99 豪ドル/約 4,600 円	5.99 豪ドル/約 600 円	10.49 豪ドル/約 1,000 円	21.29 豪ドル/約 2,100 円	10.99 豪ドル/約 1,100 円

【表3】シドニー中心部のアジア系小売店で販売されていた本県に関連する食品

### 4. 今後の可能性

オーストラリアの経済は、国内人口の増加などを背景として、安定的に成長を続けてきた。人口は、海外からの移民などにより、依然として増加している<sup>4</sup>。平均所得が高く<sup>5</sup>、輸出食品に対する購買意欲も高い。日本文化や日本食への関心が高く、今後も日本からの食品輸出市場の拡大が期待される。

本県の食品の輸出先として、将来性のある市場の一つであるオーストラリアの動向について、今後も最新情報の収集とフィードバックに努めたい。

※ 為替レート 1 豪ドル=97 円

<sup>3</sup> Ready to drink (すぐに飲めるもの) の略で、RTD 飲料と呼ばれる。

<sup>4</sup> オーストラリアの人口 (2022 年 6 月時点で 2,600 万人) は、2032 年までに 2,920 万人から 3,080 万人に、2071 年までに 3,430 万人から 4,590 万人に到達すると予測されている。Australian Bureau of Statistics, *Population Projections*, <https://www.abs.gov.au/statistics/people/population/population-projections-australia/2022-base-2071> (Accessed 2024-2-22)

<sup>5</sup> 2023 年 12 月時点で、オーストラリアの成人 (フルタイム) の平均収入は週 1,888.80 豪ドル (約 18 万 3 千円)。Australian Bureau of Statistics, *Average Weekly Earnings, Australia*, <https://www.abs.gov.au/statistics/labour/earnings-and-working-conditions/average-weekly-earnings-australia/latest-release> (Accessed 2024-2-22)